ＪＲ東日本カップ2006第80回関東大学サッカーリーグ戦（後期）１部リーグ第12節

駒澤大学２－０東京農業大学

KOMAZAWA × TOKYONOUGYOU

9月２日 14:10 駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場

駒大 2(1－0 / 1－0)0 東農大

得点者(アシスト)

【駒】14 分:菊地光将(原　一樹)
【駒】73 分:島田祐輝(巻　佑樹)

KOMAZAWA	TOKYONOUGYOU
GK①三栗寛士(4)	GK①藤井賢心(2)
DF⑬塚本泰史(3)	DF②川口卓也(3)
DF②阿部琢久哉(4)	(49 分⑦横田倫光(2))
DF⑤廣井友信(4)	DF 剣持貴充(4)
DF③筑城和人(4)	DF④大田浩二(4)
（88 分㉔鈴木寿毅（2））	DF⑤工藤祐生(2)
MF④菊地光将(3)	MF⑰角田真行(1)
MF⑪東平大佑(3)	MF⑩河井雄一郎(4)
(65 分⑫高崎寛之(3))	MF㉑阿部文宣(3)
MF⑯島田祐輝(2)	MF㉔原田　圭(3)
MF⑭竹内　優(4)	(82 分㉒勝部大輝(1))
(60 分⑱小林竜樹(3))	FW 鴨志田真生(2)
FW⑨巻　佑樹(4)	（75 分㉛細野敬統（1））
FW⑩原　一樹(4)	FW㉙常盤　聡(1)
S U B	S U B
GK㉑山内達夫(3)	GK㊵大島英毅(2)
DF㉞市川祐樹（1）	DF㉗坂口達也(1)
DF㉓小野里銀児(3)	MF⑥古橋　憲(4)
MF㉘山崎健太(1)	MF⑳今泉享也(3)
MANAGER	MANAGER
秋田浩一	村松幸典

[シュート]9:6[GK]10:16[CK]7:3[PK]0:0[直接 FK]12:19[間接 FK]3:5[OS]3:4[主審]西　是秀[観衆]約 400 人

上記データは全て左側の数字が駒澤大学

ゴール前でシュートを放つ島田。持味の突破力を生かし幾度となく相手ゴールを脅かした　　（斉藤卓也撮影）

基本フォーメーション

巻　原　竹内　島田　東平　菊地　筑城　塚本　阿部　廣井　三栗

次なる目標へ

天皇杯予選で法大に大敗してからわずか1週間。駒大はわずかな期間で気持ちを切り替え、リーグ戦連覇という次なる目標に向け開幕を迎えた。先発メンバー発表。公式戦久々の出場となる三栗と阿部、天皇杯予選でいい動きを見せていた竹内をはじめ4年生を7人起用。秋田監督は「レギュラー陣への刺激の為」と語るが、4年生の最後にかける気持ちを後期の起爆剤にしようとの思いもあったのかもしれない。

試合は14分、原の右クロスを菊地が頭であわせ先制。今日の原は切れのある突破を見せ調子のよさを感じさせた。また守備陣も相手にほとんどチャンスを作らせず前半を終えた。

三栗が「入り方が悪かった」と振り返るように後半立ち上がりは東農大にペースを握られる。しかし、相手のミスやシュート精度の低さにも助けられ、この時間をしのぐと再び駒大ペースに。73分、駒大のオプションの1つとなっている原のロングスローを巻が頭でそらし「佑樹さんの高さを信じて待っていただけ」と語った島田が勝利を決定づける2点目を決めた。

廣井が「(試合内容は)良くはなかった」と振り返る。しかし、どの選手も0に抑えた事に関しては手ごたえを口にした。法大戦後のショックは勝利という結果で払拭された。首位の流通経大が破れたため首位に浮上した事も追い風になる。「順位は関係ない。自分達のサッカーをするだけ」と廣井は頼もしい言葉を残し；

首位に立ったことで『駒大サッカー』はさらにマークされる。そして、リーグが進むにつれて対戦する上位陣も目の色を変えて挑んでくるだろう。それでも王者・駒大にはこの位置が良く似合う。

（星　宏樹）